

# 2023年10月6日 『朝礼時講話～報告事項』

## (1) 講話概略【光寿苑の看取りを改めて考える】

今年度も半年が経ちました。先月の末から1週間ほどの間に、3人の方がご逝去（上半期は1人）されました。要因としましては、暑過ぎた夏を何とか超えてきたのですが、ここ最近の急な冷え込みは私たちですら体調すぐれなくなるくらいですから、高齢のお年寄りたちにとってはかなりの負担がありだったと思います。ここで気をつけなければならないのが、昔の人がよく言っていた、続けて人が亡くなると、“連れていかれた”という表現。この実態の根拠はありませんし、それぞれの方がご自身のご生涯を全うされたのであり、その時期が近かったに過ぎません。それぞれの方の人生を全うされた姿を尊ぶ考え方を大切にしたいと思います。

そしてもう一つ。今年5月より嘱託医が変わり、光寿苑での看取りのあり方にも変化がありました。まずは、看取り同意面談を実施済で、徐々に看取り期を経過して夜中にご逝去された場合、嘱託医はすぐには駆けつけられない事が基本となっています。朝方になってから診察に出向かれる流れです。ただし、看取り同意面談を実施してすぐのご逝去の場合や、ご家族の心理的状况に案じる点があるケースでは、嘱託医から夜中であっても駆けつけて頂く判断もあります。ケースバイケースで変更がある事を理解しておいて頂きたいと思います。

そしてもう一点ですが、光寿苑で看取る際は、医療行為をまず施さないというのが、基本となります。これは、『何もしない』という表現よりは、『不要なことをしない』という表現が適しているかと思います。20年くらい前ですと医療行為を最後まで尽くすという事がまだありましたので、様々な管を繋いで、体がパンパンになっても続けるのがあたり前でした。でも、その方々は話せなかっただけで、“もう要らない”と体で精いっぱい表していた事を私たちは知っています。



今回ご逝去されたお年寄りたちはどうだったでしょうか。不要なものが入らなかった事で、眠っているかのようなとてもスッキリした安らかな表情でお見送りする事ができました。この最後の表情も、残されるご家族や私たち職員のグリーンケアへと繋がっていくものです。

これからの光寿苑の看取りの考え方とあり方を再検証する下半期だと思っています。

## (2) 連絡事項について

- ① 先月の朝礼でも申し上げましたが、今月末、介護のMさんが勇退となります。また、技能実習生として3年がんばってくれましたEさんも今月末で期限を迎え帰国となります。光寿苑のお年寄りを護ってくれたお2人との時間、1ヶ月弱ですが大切に過ごして参りましょう。
- ② 本日付で、T.Kさんが施設入居となります。今、お迎えに出向いております。
- ③ 入居の事前調査のため、老健〇〇に本日行って参ります。
- ④ 今、お話しがりましたが、一気にベッドの空きが生じたので、早急に入居に向けて事前調査を進めて参ります。情報は後ほどお伝えいたします。
- ⑤ 8月と9月に発行を休んでおりました『動き出しんぶん10月号』となります。各部署・各ユニットで目を通してください。
- ⑥ 上半期の振り返りと、下半期の目標設定の時期となっています。〆切を10月25日までとしますので、各部署・各ユニットで話し合いをお願いします。

【講話 + ④～⑥ = 理事長 ② = 生活課長 ③ = 介護支援専門員】